

(別紙)

2022年 6月23日採択

2022年 11月19日掲載

第64回京都大学11月祭全学実行委員会

第64回京都大学11月祭の日程決定に関する声明(案)

1. 声明趣旨

第64回京都大学11月祭の日程変更に関し、以下の点が事実であることを確認する。

1. 全学実行委員会は、大学の意向を受け、第64回京都大学11月祭を当初の要望と異なる日程で開催することを承認した。
2. 日程変更の承認に関し、大学から提案された日程の変更の可能性が低かったために、十分な議論がなされないまま日程変更を承認せざるを得なかったという事実をここに確認する。

本声明は、上に述べた事実を踏まえて、今年度生じた問題の指摘と今後に向けた姿勢の表明を行うとともに、次年度以降、11月祭の日程に係る決定が公正になされることを目指して行われるものである。

2. 経緯

全学実行委員会で提案した日程とアカデミックカレンダーで公表された第64回京都大学11月祭の日程が異なることを発見したため、2022年5月22日、11月祭事務局(以下、事務局とする)は第一回全学実行委員会にて、大学から確認なく第64回京都大学11月祭の日程が変更されたとしつつ、大学の意向も踏まえてアカデミックカレンダーに示された日程に変更することを提案した。大学によると、変更の理由は、「全学実行委員会が提案した日程では、曜日振替を多く行わざるを得ず、非常勤講師の取り扱いが複雑になる。曜日振替を行わなければ、後期の終了が一週間遅くなり、入試の準備や卒論などの論文の審査に影響が出る。これらのことを避けたいため。」とのことであった。全学実行委員会は、大学に対し声明文を出すことを条件に日程変更を承認した。

しかしながら、実際のところは、2021年3月の時点で当時の事務局の担当者が大学から「第64回11月祭は全学実行委員会が要望した日程とは異なる日程を採用することになったが問題ないか」という確認を受けていた。これが事務局内で発覚したのは、本年度の第一回全学実行委員会の三日後、2022年5月25日である。当時の担当者は、4日間開催が保たれていること、協議をしても大学が提案した日程から変更される可能性がかなり低いと判

(別紙)

断したこと、またこの問題への認識が甘かったことから、大学に対する協議の要請は行わず、全学実行委員会および事務局内での情報共有も十分に行わなかった。

この発覚を受け同年5月29日、事務局は訂正とお詫びの文書をWebサイトに公開し、第一回全学実行委員会参加申込者へメールで連絡した。また、同年6月15日に開かれた第二回全学実行委員会での協議の結果、事務局が提示した声明文案をもとに大学側へ要望書という形で文書を提出することが承認された。同時に、11月祭参加者への本問題の周知を目的として、要望書に本件の経緯を加えたものを声明文として11月祭公式パンフレットに掲載することが提案され、同年6月23日の第三回全学実行委員会にて承認された。

以上が第64回京都大学11月祭の日程変更の経緯、及び本声明文を公表することとなった経緯である。

3. 声明

「1. 声明趣旨」に示された通り、第64回京都大学11月祭の日程変更にあたり、大学の曜日振替を減らしたいという意向を受け、全学実行委員会において検討した結果、当初の要望と異なる日程で開催することを承認した。

11月祭の日程に限らず、11月祭の根幹に関わる事項であれば、全学実行委員会内で十分な議論をしたのち、学生と大学の間で協議が進められるべきである。しかしながら、今年度の日程については、大学からの確認はあったものの、学生と大学の間での十分な議論はなされなかった。

大学には、11月祭の日程等、11月祭の根幹に関わる事項であれば、大学が検討した段階で学生側に連絡するよう求めるとともに、全学実行委員会の要望があれば話し合いに応じることを求める。

全学実行委員会は、今後の11月祭開催に向けて、日程をはじめとした11月祭の根幹に関する検討において、議論を尽くした上での合理的な合意形成を目指していくという意思をここに表明する。

以上